

特集2

新春トップセミナー



来賓挨拶

大阪大学統括理事・副学長 田中 敏宏 氏

ご紹介いただきました大阪大学統括理事・副学長の田中敏宏でございます。本日は生産技術振興協会による素晴らしいセミナーを開催していただき、誠にありがとうございます。また本日は「いのち輝く未来社会の実現に向けて」をテーマに、大阪・関西万博のお話を2025年日本国際博覧会協会事務総長の石毛様、関西経済同友会代表幹事の池田様から頂戴します。どうもありがとうございます。私は現在、大阪大学の吹田キャンパスに居ります。1970年に大阪で万博が開催されました。本日の会場を拝見するとご年配の方が参加されていますので、70年万博を振り返って少し話をさせていただきます。大阪大学のキャンパスは70年万博が開催された万博公園に隣接しています。大学内の少し高い建物に上ると太陽の塔が望めます。私が学生だった頃は1970年代後半で、学内にはまだ万博の駐車場の痕跡である白い線が残っていました。50年前ではありますが、私は時間の経過を短く感じています。70年当時は中学1年生であり今でも明確に覚えています。アメリカ館、ソ連館があって2つの国が互いに競い合うような、素晴らしい新しい未来を感じさせるようなもので、長い行列ができていたことが記憶に残っています。当時の世界は西側諸国と東側諸国に分かれていた時代でした。それから20年後、私

は1989年からドイツに滞在する機会がありました。その89年11月にベルリンの壁が崩壊しました。その中に私はいたわけですが、東ドイツと西ドイツが1つになり、その後にソ連も無くなりました。これで世界の未来は平和になるだろうという期待感がわき上がりました。その1990年からすでに30年が経ちましたが、その当時描かれた姿と今は変わった状況にもなっています。1970年から数えると今年で50年になりました。その半分の25年を1970年からさかのぼると、1945年にあたります。ちょうど終戦の年で日本は壊滅的な状態でした。つまり20年から30年という期間で、世の中はこんなにも変わるものだという事です。今回の万博が開催されることにあたって、ずいぶんそれを痛感します。変わるものだ、変わり得るものだ、あるいは変えることができるものだと言えるのかもしれませんが、万博が開催される2025年からさらに20年、30年を過ぎると、今度の主役は私たちの世代でなく、若い人たちが担うこととなります。今度の新しい万博では、会場を実験の場としていろんな取り組みがあって、若い人や大学の関係者もお世話になり、お世話をさせていただく関係になるかと思っています。若い人たちの将来に向けて期待の持てる内容になることを願っております。というのは、70年万博が起点と

なって1980年には「ジャパン・アズ・ナンバーワン」の時代になりました。前の万博は、日本が新たな時代に突入していくターニングポイントになったと言えます。その後にバブルがはじけたことがありましたが、それも新たな発展の機会に遭遇したということであったわけです。今回は成熟社会での新たな未来に対するターニングポイントになり得る万博、それが訪れることを楽しみにしています。大学の寄与という観点から、1970年の万博当時に大学はどのような状況だったかという点、大学紛争の真ただ中だったので、産学連携などはとんでもない時代であったかと思えます。今はどうかといえば、大阪大学では生産技術振興協会とも連携をとりあって産学連携にかなり力を入れております。特に2006年からは、企業の皆さんが大学の中に常駐していただ

く「インダストリー・オン・キャンパス」という制度を導入し、2006年に3つの企業に協力していただきました。2020年1月現在ではすでに100社に常駐していただいております。非常に密接な産学連携をしていただいておりますので、ぜひとも今度の万博では経済界、産業界の皆様、そして大学関係者の若い人を巻き込んで素晴らしい万博になるように願っていますし、次の20年、30年を見据えたイベントになればと思っております。本日は生産技術振興協会の皆様にごこのような素晴らしいタイトルのトップセミナーを開催していただきました。今後もこのようなテーマで講演会、セミナーを開催していただき、次は会場が若い人たちであふれるような万博のセミナーを企画していただけることを願っております。本日はどうもありがとうございます。

